

支部報告

関西支部

平成22年度支部大会および支部総会

石田泰一郎（関西支部長）

2011（平成23）年2月19日（土）京都大学桂キャンパスBクラスター桂ホールにおいて、京都大学大学院工学研究科の共催を得て開催した。参加者は64名、研究発表は19件であり、特別講演まで含めて密度の高い一日になった。研究発表では学生による発表が多く、活発な質疑と討論がなされた。その中で研究発表優秀賞（奨励賞）は明本学さん（立命館大学）、岡本由佳子さん（京都府立大学）、中川昌也さん（京都大学）の3名に決定した。優秀な発表が多く僅差の審査であったとの総評があった。特別講演は片寄晴弘氏（関西学院大学理工学部教授）にCrestMuseプロジェクトの考え方に始まり、具体的な研究成果を豊富な映像と音楽情報を用いてご紹介頂いた。楽曲の特徴抽出、自動作曲、歌唱デザイン、音楽鑑賞インターフェースなどの面白さを楽しみつつ、デザインやオリジナリティとは何かということのを改めて考えさせられる刺激に満ちた講演であった。

特別講演のあと支部総会を開催し、今年度の活動状況について計画も含め説明と報告を行い承認された。会計については年度の途中でもあり5月の総会資料で決算等を確認いただくことで了承を得た。

第1セッション＜照明と色＞（1～4）

最初の口頭発表は4件であった。本セッションでは、空間の明るさ感について、室内空間に有彩色物体を置き、光源の種類、照度、並びに物の色を変化させた場合に、被験者がどのように評価するかについて検討していた。光源は、最近普及しているLED照明による発表が2件、蛍光灯によるものが2件であった。照明方法は、実空間を考えて窓面から照明した発表が1件以外は、天井照明であった。ここでは、評価に影響する要因が多く、結果を導く実験条件の設定方法に難しさを感じた。（大野治代）

第2セッション＜視認性＞（5～8）

色覚異常、白内障、視覚障害など何らかの視覚的な困難を有する人に対する支援技術に関する4件の研究発表があった。ディスプレイ色空間における混同色線

に関する研究、ブログページの視認性向上のための研究は、多様なメディアの利用を想定したものである。白内障の簡易測定法として色弁別という単純な課題を用いた方法が提案された。また、視覚障害者に衣類の色と模様を音声情報で伝達するユニークな試みの提案もあった。いずれの研究もユーザーの個別の特性への対応をめざしたものであり、興味深く感じた。

（石田泰一郎）

第3セッション＜情報、計測＞（9～12）

デジタルカメラを用いた二次元シーンの色度計測、マルチバンドカメラ画像の位置ずれ補正、分光画像による距離推定、測色計を用いない携帯電話ディスプレイのカラーマネジメントについての発表があった。

とくに、測色計を用いないパーソナルなカラーマネジメント手法は、完全色恒常性の成立を前提とすることの妥当性についてフロアーから指摘があったが、多様な照明環境で使用され、所有者以外は使用しないという携帯電話の特徴に合致し、興味深い提案である。今後の研究の成果を期待したい。（片山一郎）

第4セッション＜色彩心理、応用＞（13～16）

色彩心理、応用のセッションでは、中国における甘味を表す言葉と色のイメージに関する調査研究や、給食用トレイの色と料理の組み合わせが与える心理的影響など、食と色彩に関連する発表がまず2件あった。つぎに色彩調和に対する照明光源の影響や印象語による画像検索システムの構築など、配色と色彩感情に関連づけた研究が2件発表された。どの研究発表でも活発な質疑応答がなされ、色彩心理への興味や期待が高まっていることが感じられた。（西 省吾）

第5セッション＜色とイメージ＞（17～19）

トイレ表示の色彩とデザインについては、調査地点が少なすぎるのが気になるが、日本人にとって常識になっている「男が青・女が赤」ということが、海外では意外と無彩色が多いなど参考になる事例が報告された。四季のイメージの報告は、初学者という前提があるにせよ、少し関連づけるのは無理があると思われる

る。現代日本の和色名とカタカナ色名の嗜好度調査分析は、紫色のみが和名として好まれる以外は全てカタカナの方が好まれるという、いかにも現代的な答えが興味を抱かせた。(須田勝仁)

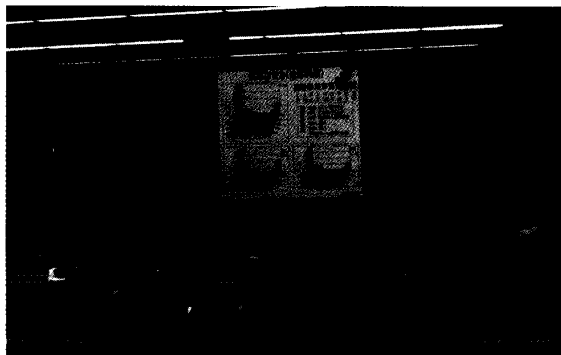
<発表>

- (1) 有彩色物体が存在する空間の明るさ感の定量的予測に関する研究—浅野雄太・石田泰一郎(京都大学大学院)
- (2) 空間の明るさ感に与える家具色彩の影響—高田英成・山口秀樹・篠田博之(立命館大学情報理工学部)
- (3) 窓のある照明空間の明るさ感評価—丸山隆志・山口秀樹・篠田博之(立命館大学情報理工学部)
- (4) 照明の色による空間の視覚的印象の色度図全域にわたる体系的評価—中川昌也(京都大学工学部), 石田泰一郎(京都大学大学院)
- (5) ディスプレイ色空間における擬似二色型色覚者の色弁別閾値からの混同色線の導出—松平圭央(立命館大学大学院), 篠田博之・山口秀樹(立命館大学情報理工学部)
- (6) ブログページの視認性向上の為の色彩変換—上原 翼・土居元紀(大阪電気通信大学)
- (7) 散乱光による色弁別能力低下にもとづく白内障簡易測定法—岩本政史(立命館大学大学院), 篠田博之・山口秀樹(立命館大学情報理工学部)
- (8) 視覚障がい者支援のための衣類の色および模様提示システムの評価—三宅正夫*・眞鍋佳嗣*・浦西友樹*・池田聖*・千原國宏*(*奈良先端科学技術大学院大学, *千葉大学大学院)
- (9) デジタルカメラを用いた輝度・色度分布計測における周辺光補正—明本 学(立命館大学大学院), 山口秀樹・篠田博之(立命館大学情報理工学部)

- (10) 干渉フィルタによるマルチバンドカメラの補正手法—西 省吾(大阪電気通信大学), 富永昌治(千葉大学大学院)
- (11) 分光反射率を用いたステレオマッチングによる三次元計測—南 淳史・土居元紀(大阪電気通信大学)
- (12) 色恒常性を利用した携帯電話ディスプレイのカラーマネジメント—古川幸司・篠田博之・山口秀樹(立命館大学情報理工学部)
- (13) 甘味を表す言葉と色のイメージ—中国人の大学生を対象にして—薛 曉熠・富田圭子・松井元子・大谷貴美子(京都府立大学)
- (14) 給食用トレイの色と料理の組み合わせが喫食者の心理に与える影響—岡本由佳子・富田圭子・松井元子・大谷貴美子(京都府立大学)
- (15) 色集合の調和性に対して照明光源の色が与える影響の系統的調査—森 文徳・石田泰一郎(京都大学大学院)
- (16) 個人性を考慮した印象語による画像検索—湯口翔史朗・土居元紀(大阪電気通信大学)
- (17) トイレ表示の色彩とデザイン—3都市のピクトグラム—金 基英・大野治代(大手前大学)
- (18) 初学者における日本の四季の色イメージと形との関連性—森友令子(大阪国際大学現代社会学部)
- (19) 現代日本語の和名色名とカタカナ色名の嗜好度差—300名の色名アンケート調査分析結果—吉村耕治(関西外国語大学短期大学部), 山田有子(色彩講師・挿絵画家)

<特別講演>

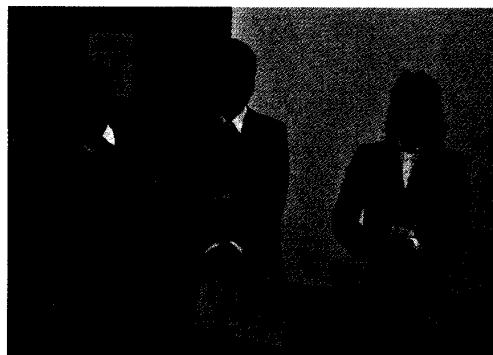
音楽デザイン・鑑賞を支援する技術—CrestMuseプロジェクトでの取り組み—関西学院大学理工学部教授 片寄晴弘氏



研究発表



特別講演 片寄晴弘氏



発表優秀賞受賞者
(左から中川, 明本, 岡本の各氏)